

## 看 護

### 1 教育課程研究協議会の経過（平成21年度～24年度）

平成21年度から24年度までの手引及び教育課程研究協議会の概要は次のとおりである。

	手 引 の 概 要	説 明 及 び 協 議 の 概 要
平成 21 年 度	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 科目構成</li> <li>2 改訂の基本方針</li> <li>3 改訂の内容               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 目標</li> <li>(2) 各科目</li> </ol> </li> <li>4 質疑応答</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 説明               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 科目の新設を含めた再構成、内容の見直しについて</li> <li>(2) 科目「基礎看護」及び新設科目の目標、内容の構成と取扱いについて</li> </ol> </li> <li>2 協議               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 科目の再構成、内容の見直しについて</li> <li>(2) 科目「看護の統合と実践」の位置付けについて</li> </ol> </li> </ol>
平成 22 年 度	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 全般事項</li> <li>2 各科目               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 老年看護、在宅看護</li> <li>(2) 母性看護、小児看護</li> <li>(3) 精神看護</li> <li>(4) 看護臨地実習</li> <li>(5) 看護の統合と実践</li> <li>(6) 総合実践</li> </ol> </li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 説明               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 指導計画の作成、学習活動、各科目の指導上の配慮事項について</li> <li>(2) 各科目の内容の取扱い等について</li> </ol> </li> <li>2 協議               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 指導計画の作成、地域連携を通じた学習活動、各科目の指導に当たっての配慮事項について</li> <li>(2) 科目「統合実践」の配慮すべき事項について</li> </ol> </li> </ol>
平成 23 年 度	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 教育課程の編成               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 基本的な考え方</li> <li>(2) 配慮すべき事項</li> </ol> </li> <li>2 指導計画の作成と内容の取扱い               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 指導計画作成上の留意点</li> <li>(2) 内容の取扱い</li> </ol> </li> <li>3 言語活動を充実する学習指導の実践例</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 説明               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 教育課程の編成において配慮すべき事項について</li> <li>(2) 指導計画作成上の留意点と内容の取扱いについて</li> <li>(3) 言語活動を充実する学習指導について</li> </ol> </li> <li>2 提言               思考力・判断力・表現力の育成や学習意欲の向上を図るための指導の工夫             </li> <li>3 協議               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 実験・実習による指導の工夫について</li> <li>(2) 科目「看護臨地実習」を通じた言語活動の充実について</li> </ol> </li> </ol>
平成 24 年 度	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 学習指導の改善・充実               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 学習指導の改善・充実の視点</li> <li>(2) 効果的な学習指導</li> </ol> </li> <li>2 評価方法の改善・充実               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 学習評価についての基本的考え方</li> <li>(2) 学習評価における配慮事項</li> </ol> </li> <li>3 学習評価の具体例               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 科目「基礎看護」指導内容等</li> <li>(2) 観点別評価の進め方</li> </ol> </li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 説明               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 効果的な学習指導について</li> <li>(2) 教科「看護」での評価規準の設定における各観点の特性への配慮事項について</li> <li>(3) 科目「基礎看護」の指導計画と観点別評価の進め方について</li> </ol> </li> <li>2 提言               思考力・判断力・表現力の育成や学習意欲の向上を図るための指導と学習評価             </li> <li>3 協議               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 学習指導の改善・充実について</li> <li>(2) 看護の知識・技術の統合について</li> </ol> </li> </ol>

## 2 指導と評価を円滑に行うための年間指導計画の作成

ここでは、看護に関する学科において、原則としてすべての生徒に履修させる科目「基礎看護」における指導と評価に関する年間指導計画等の具体例を示す。

科目「基礎看護」（2単位）の年間指導計画（例）

月	単元	具体的な学習内容	実習	評価の観点	評価方法
4	(2)日常生活と看護 ア 日常生活の理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日常生活行動は人間の基本的欲求に基づくものであり、対象の状態に応じて自立に向けた援助が必要なことを理解する。</li> <li>○日常生活行動と成長・発達及び健康の保持・増進との関わりについて学び、日常生活行動を自力で行えない患者の安全で安楽な援助の実際を理解する。</li> </ul>		<p><b>【関心・意欲・態度】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○日常生活行動と成長・発達及び健康の保持・増進との関わりに関心を持ち、自力で行えない患者の援助について安全と安楽に配慮し、自立に向けた援助について、主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。</li> </ul> <p><b>【思考・判断・表現】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○日常生活行動と成長・発達及び健康の保持・増進との関わり及び日常生活行動を自力で行えない患者の援助について、安全と安楽に配慮し、自立に向けた援助の必要性について科学的に思考を深め、適切に判断し、考えを表現している。</li> </ul> <p><b>【技能】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○日常生活行動と成長・発達及び健康の保持・増進との関わり及び患者の安全・安楽に配慮し、自立に向けた援助に関する資料を収集し、その意味を読み取り、整理し、まとめている。</li> </ul> <p><b>【知識・理解】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○日常生活行動と成長・発達及び健康の保持・増進との関わりについて理解している。</li> <li>○日常生活行動は人間が生理的・心理的・社会的に平衡状態を維持するための行動でもあることを理解している。</li> <li>○日常生活の援助を行う場合は、安全・安楽に配慮し、患者の状態に応じて自立に向けた援助が大切であることを理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習ノート</li> <li>○小テスト</li> <li>○レポート課題</li> <li>○自己評価表</li> <li>○授業への参加態度</li> </ul>
5	キ 衣生活の援助	<ul style="list-style-type: none"> <li>○衣生活の意義及び衣服と健康の関わりについて理解する。</li> <li>○寝衣の条件及び寝衣交換の必要性について理解する。</li> <li>○患者の状態に応じた寝衣の着脱方法に関する基礎的な技術を身に付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○寝衣交換</li> <li>○シーツ交換</li> <li>○シーツ交換と寝衣交換</li> </ul>	<p><b>【関心・意欲・態度】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○衣生活の意義及び衣服と健康との関わりについて関心を持ち、患者の状態に応じた寝衣の着脱方法について主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。</li> </ul> <p><b>【思考・判断・表現】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○患者の状態に応じた寝衣の着脱方法について科学的に思考を深め、適切に判断し、考えを表現している。</li> </ul> <p><b>【技能】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○患者の状態に応じた寝衣の着脱方法に関する資料を収集しその意味を読み取り、整理し、まとめている。</li> <li>○患者の状態に応じた寝衣の着脱方法に関する基礎的な技術を身に付けている。</li> </ul> <p><b>【知識・理解】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○衣生活の意義及び衣服と健康との関わりについて理解している。</li> <li>○寝衣の条件及び寝衣交換の必要性について理解している。</li> <li>○患者の状態に応じた寝衣の着脱方法に関する基礎的な知識を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習ノート</li> <li>○小テスト</li> <li>○ワークシート</li> <li>○レポート課題</li> <li>○自己評価表</li> <li>○授業への参加態度</li> <li>○実技試験</li> <li>○定期考査</li> </ul>

6	ケ 病床環境の調整	○健康回復に対する影響を理解し、患者の状態に応じた病床環境の調整の方法を身につける。		<p>【関心・意欲・態度】</p> <p>○環境条件が患者の健康回復に及ぼす影響に関心を持ち、患者の状態に応じた病床環境の調整について主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>○患者の状態に応じた病床環境の調整について科学的に思考を深め、適切に判断し、考えを表現している。</p> <p>【技能】</p> <p>○患者の状態に応じた病床環境に関する資料を収集し、その意味を読み取り、整理し、まとめている。</p> <p>○病床の作り方及び患者の状態に応じて病床環境を整えるための基礎的な技術を身に付けている。</p> <p>【知識・理解】</p> <p>○人間の健康にとって望ましい環境条件と健康回復に及ぼす影響を理解している。</p> <p>○病床の作り方及び患者に状態に応じて病床環境を整えるための知識を身に付けている。</p>	<p>○学習ノート</p> <p>○小テスト</p> <p>○ワークシート</p> <p>○レポート課題</p> <p>○自己評価表</p> <p>○授業への参加態度</p> <p>○実技試験</p> <p>○定期考査</p>
---	-----------	--	--	---	---

【単元の指導計画（例）】

時	学習内容	学習活動	評価の観点				評価規準	評価方法
			関	思	技	知		
1								
2	環境整備の条件	【講義】望ましい病床環境（安全・機能の正常）を説明する。	○				望ましい病床環境について適切に判断しまとめることができる。	自己評価 小テスト
6		【講義】物理的条件や取り巻く人々を交え環境を説明する。				○	良好な環境について理論に準拠して理解できている。	
3	ベットメイキングの意義・方法	【講義・実習】安全・安楽を踏まえての基礎技術を説明し、ベットメイキングを行う。	○				安全で安楽を配慮したベットメイキングの基礎を身に付けようとしている。	行動観察 ワークシート 自己評価 実技テスト
4		【講義・実習】技術の根拠を説明し、留意点を踏まえ実践させる。				○	ベットメイキングの留意点を基に実践することができる。	

3	カ 身体の清潔の援助	○清潔の意義と清潔保持の必要性を理解し、安全・安楽に援助する方法を身につける。	<p>○清拭</p> <p>○洗髪</p> <p>○足浴</p> <p>○口腔ケア</p>	<p>【関心・意欲・態度】</p> <p>○人間にとっての清潔の意義と清潔保持の必要性について関心をもち、患者の状態に応じた皮膚・毛髪や口腔等の清潔の援助について主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>○患者の状態に応じた皮膚・毛髪や口腔等の身体の清潔の援助方法について科学的に思考を深め、適切に判断し、考えを表現している。</p> <p>【技能】</p> <p>○患者の状態に応じた身体の清潔の援助に関する資料を収集し、整理し、まとめている。</p> <p>○患者の状態に応じた皮膚・毛髪や口腔等の身体の清潔の援助を行うための基礎的な技術を身に付けている。</p> <p>【知識・理解】</p> <p>○身体の清潔と健康との関連、人間にとっての清潔の意義、清潔保持の必要性について理解している。</p> <p>○患者の状態に応じた皮膚・毛髪や口腔等の清潔の援助に関する基礎的な知識を身に付けている。</p>	<p>○学習ノート</p> <p>○小テスト</p> <p>○ワークシート</p> <p>○レポート課題</p> <p>○自己評価表</p> <p>○授業への参加態度</p> <p>○実技試験</p> <p>○定期考査</p>
---	------------	---	---	--	---

### 3 観点別学習状況の観点別の総括

学習評価は、評価の観点や評価規準に応じて、生徒の学習状況を的確に評価できる方法を選択していくことが必要であり、目標に準拠した学習評価により観点別学習状況の評価を行うことが適している。観点別評価の総括を行う方法としては、学習活動に即した評価規準に照らして、評価を行い、それを総括して観点ごとの判定をする。総括する具体的な方法としては、A、B、Cの個数や割合に基づく方法やA、B、Cを数値に換算して集計する方法が考えられる。ここでは、単元「(2) 日常生活と看護 ケ 病床環境の調整」を取り上げ、観点別評価を総括する方法の具体例を示す。

#### 科目「基礎看護」単元名「(2) 日常生活と看護 ケ 病床環境の調整」

科目名 (履修学年・単位数)	基礎看護 (2学年・2単位)			
単元名	(2) 日常生活と看護 ケ 病床環境の調整			
単元の目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 環境整備の意義と目的を理解することができる。</li> <li>2 病床環境を整える条件と健康回復に及ぼす影響を理解することができる。</li> <li>3 安全・安楽に配慮したベットメイキングが実施できる。</li> <li>4 患者の状態に応じた病床の作り方及び病床環境を整えることができる。</li> </ol>			
評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
「(2) 日常生活と看護」の評価規準に盛り込むべき事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者の状態に応じた日常生活の援助について関心を持ち、患者の健康回復を目指して主体的に取り組もうとするとともに、看護を適切に行う実践的な態度を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者の状態に応じた日常生活の援助について科学的に思考を深め、安全と安楽に配慮し、患者の自立を目指して適切に判断し、考えを表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者の状態に応じた日常生活の援助に関する基礎的な技術を身に付け、その技術を適切に活用している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活が人の健康や成長・発達に大きく関わりを持つことを理解し、患者の状態に応じて、健康の回復に役立つ日常生活の援助に関する基礎的な知識を身に付けている。</li> </ul>
「ケ 病床環境の調整」の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間の健康にとって望ましい環境条件と環境条件が患者の健康回復に及ぼす影響に関心を持ち、患者の状態に応じた病床環境の調整について主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。</li> <li>・患者を取り巻く人々と患者との人間関係とその調整に関心を持ち、主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者の状態に応じた病床環境の調整について科学的に思考を深め、適切に判断し、考えを表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者の状態に応じた望ましい病床環境に関する資料を収集し、その意味を読み取り、整理し、まとめている。</li> <li>・体験・実習を通して病床の作り方及び患者の状態に応じて病床環境を整えるための基礎的な技術を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間の健康にとって望ましい環境条件について理解している。</li> <li>・環境条件が患者の健康回復に及ぼす影響を理解している。</li> <li>・病床の作り方及び患者の状態に応じて病床環境を整えるための知識を身に付けている。</li> <li>・患者を取り巻く人々と患者との人間関係の調整について理解している。</li> </ul>

学習活動における具体の評価規準と主な評価方法

学習内容・活動	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
①環境整備の条件 【講義】		・望ましい病床環境について、適切に判断し、考えを表現している。		・人間の健康にとって望ましい環境条件について理解している。
		自己評価・小テスト		小テスト
②ベットメイキングの意義・方法 【講義、実習】	・安全で安楽を配慮したベットメイキングの基礎を身に付けようと、主体的に取り組んでいる。		・ベットメイキングの留意点を基に実践している。	
	行動観察・ワークシート		自己評価・実技テスト	
③リネンのたたみ方 【講義、実習】		・リネンのたたみ方に関する知識や技術を適切に判断し、行動している。	・リネンのたたみ方の留意点を基に実践している。	
		行動観察・ワークシート・小テスト	行動観察・実技テスト	
④病床環境の考え方 【講義、実習】	・病床環境の調整について主体的に取り組んでいる。	・病床環境の環境調整について適切に判断し、表現している。		・病床環境の環境調整について、役割と効果を理解している。
	行動観察・ワークシート	ワークシート・小テスト		ワークシート

(1) 単元における観点別評価の総括

単元においては、学習過程における評価情報を観点ごとに総括する。学習活動に即した評価規準に照らして、評価を行い、それを総括して観点ごとに判定し、その評価結果のA、B、Cの個数と割合で総括する方法を例として示す。この科目の目的は、看護の専門職業人としての精神的基盤である看護観や職業観及び看護職としての倫理観及び、自ら判断し行動できる力を育成することである。この科目の目的の特殊性から、それぞれの観点別評価をAと判断するには、Cが一つもないことや評価個数全体に対するAの割合を6割以上として下記のように定めた。

- ア Cが一つもなく、Aが6割以上の場合はAとする
- イ Cが4割以上の場合はCとする
- ウ ア、イ以外はBとする

単元「(2) 日常生活と看護 ケ 病床環境の調整」における学習過程（環境整備の条件、ベットメイキングの意義・方法、リネンのたたみ方、病床環境の整え方）の評価状況をまとめたものが以下のとおりである。（表1）

表1 単元ごとの評価の総括例

氏名	評価の観点	単元「療養環境の調整」																単元の総括
		環境整備の条件				ベットメイキングの意義・方法				リネンのたたみ方				病床環境の整え方				
		ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ	
〇〇〇〇	関心・意欲・態度					A	B							A	A			A
	思考・判断・表現			A	A					A	B		B		A		A	A
	技能							B	A	A			A					A
	知識・理解				B										B			B

\*ア 行動観察、イ ワークシート、ウ 自己評価、エ テスト（実技・ペーパー）

具体的には「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「技能」、「知識・理解」の4つの観点についてそれぞれの学習内容ごとに評価し、評価結果をA、B、Cとする。その後、それぞれの観点別評価A、B、Cの総数と割合で総括する。

例えば、「関心・意欲・態度」における学習活動に即した評価が「A B A A」であることから、評価個数は4個でその内Aが3個で全体の6割以上となり、単元の総括はAとなる。なお、他の観点についても同様とし、前期の単元「(2) 日常生活と看護 ケ 病床環境の調整」の観点ごとの評価は「A A A B」となる。

## (2) 学期末及び学年末の評価の総括

ここでは、前期に科目「基礎看護」において、単元「(2) 日常生活と看護」の「ア 日常生活の理解」、「キ 衣生活の援助」、「ケ 病床環境の調整」、「エ 活動・運動の援助」を実施し、それぞれの観点ごとの評価が「A B B A」、「A A B B」、「A A B B」、「B A B B」となったことから、上記(1)と同様総数の割合で総括すると、前期における総括結果は「A A B B」となる(表2)。さらに、学年末における観点ごとの総括については、学期末に総括した観点ごとの評価結果を基に行う場合と、単元ごとに総括した観点ごとの評価結果を基に行う場合などが考えられ、ここでは前期・後期の単元ごとに総括した観点ごとの評価結果を基に総括すると、結果は「A A B B」となる(表2)。なお、観点別学習状況の評価結果はA、B、Cなどで表されるが、そこで表された学習の実現状況には幅があるため、機械的に評定を算出することは適当でない場合も予想されることから、各学校で評価の方法について工夫されることが望まれる。

表2 学期・学年末の評価の総括例

氏名	評価の観点	前期				後期				学年末の総括	
		日常生活の理解	衣生活の援助	病床環境の調整	活動運動の援助	前期の総括	睡眠休息の援助	体験学習	身体清潔の援助		後期の総括
〇〇〇〇	関心・意欲・態度	A	A	A	B	A	A	B	A	A	A
	思考・判断・表現	B	A	A	A	A	A	A	A	A	A
	技能	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	知識・理解	A	B	B	B	B	B	B	A	B	B

学年末に評定へ総括する場合には、学期末に総括した評定の結果を基にする場合と、学年末に観点ごとに総括した評価の結果を基にする場合がある。観点別学習状況の評価への総括は、各観点の評価結果をA、B、Cの組合せ、又は、A、B、Cを数値で表したものに基づいて総括し、その結果を5段階で表す。ここでは、学年末の観点別評価から評定へ、A、B、Cの組合せで表したものに基づいて総括する具体的方法を示す(表3)。上記表2の場合において、学年末の評価は「A A B B」であることから学年末の評定は「4」となる。

表3 評定への総括例

評定	観点別評価の組合せ
5	A A A A A A A B
4	A A A C A A B B A B B B A A B C
3	A B B C A A C C A B C C B B B B B B B C
2	A C C C B B C C B C C C
1	C C C C

評価・評定を行うにあたり、評価に対する妥当性、信頼性等を高めるために、観点別学習状況の評価の観点ごとの総括及び評定への総括の考え方や方法について共通理解を図り、生徒及び保護者に十分説明し理解を得ることが大切である。